

野口健による エベレスト・富士山同時清掃登山計画書



協賛

コスモ石油株式会社、株式会社フェニックス、
富士フィルムホールディングス株式会社、日本たばこ産業株式会社、東京電力株式会社、
株式会社ニューバランス・ジャパン、日本アムウェイ株式会社、株式会社ジェネス
ピー・エー・ジー・インポート株式会社ボルボ・カーズジャパン、富士電機ホールディングス株式会社、
ソニー株式会社、富士急行株式会社、株式会社アイ・エックス・アイ、
尾西食品株式会社、オークリー・ジャパン株式会社

ご挨拶 野口健

2006年、春、ヒマラヤ・マナスル峰での清掃登山を行った。2000年から4年連続エベレスト清掃登山を行ったが、2006年は、マナスル峰に日本隊が世界で始めて登頂してから50年目という記念すべき年であったため、日本人として、マナスル峰への恩返しのためで清掃登山を行った。

エベレストより遥かに雪深いマナスル峰での清掃登山は、正直、大変だった。雪を掻き分けての作業。それでも、ベースキャンプ付近からは、過去の登山隊が残っていたと思われる大量のゴミを回収する事ができた。



マナスル峰での清掃登山を終え、麓のサマ村へ降りていくと、村人達からの大歓迎を受けた。さらに、私達の清掃登山に影響され、村での一斉清掃を行なうと言うのだ。もちろん、村で一斉清掃が行なわれるのは初めての事だった。野口隊の隊員ももちろん参加した。ゴミと言う観念が無い村人達には、ゴミが何かと言うレクチャーから始めなくてはいけなかった。それでも、子供を含めた村人達は、熱心に清掃を行ない、ゴミを処理していかなくてはいけないと言う事に、気が付いてくれた。私達のやっていることが、地元の人たちに少しでもよい方向に影響を与える事ができていると、本当に嬉しかった。

この経験を生かし、自分達だけで清掃活動をするのではなく、地元の人たちにも影響を与えていくことが必要だろうと、今年は、エベレスト街道の村々で、村人にも声をかけながらの清掃キャラバンを行うこととした。エベレスト街道は、年々多くの登山隊、トレッカーが訪れる為、必然的にゴミの量も増えている。トレッキングの道すがらにポイ捨てと思われるゴミも落ちている。これらの清掃を村人達と一緒にできたらどんなにか楽しいだろう。

昨年、マナスルと富士山同時清掃登山を行い、多くの人の協力のもと、大成功に終わりました。今年も、エベレスト・富士山同時清掃登山を行います。2000年からNPO法人富士山クラブと共に清掃活動を行ってきました。当初は富士山での活動は、数年前にはなかなか受け入れていただけなかったのですが、年々参加者も増え、多くの人に理解してもらい、協力してもらえるようになりました。今年もネパールと日本での同時清掃を行い、両国の友好を深く築き、環境問題を大きく訴えていきたい。

また、もう一つに目標が、チョモランマ(エベレスト・チベット側からの名称)挑戦である。97年に初めてチョモランマに挑戦し、無残に敗退し、「いつかリベンジするぞ」と誓ったチョモランマ。その後、99年にサガルマータ(エベレスト・ネパール側)登頂に成功し、チョモランマ挑戦からは遠ざかっていた。97年に挑戦してから10年が経った。今回は、遠征前半に、チョモランマ麓のチベットの村からアドバンスベースキャンプまでを清掃し、その後、登頂に集中させる予定だ。それと同時に、日本でも富士山清掃を行う。多くの人々の協力のもと、再びチョモランマに挑戦することができることに深く感謝し、初心に戻り、世界最高峰8,848mの頂を目指したい。

隊長 野口健

プロジェクト概要

野口健によるエベレスト・富士山同時清掃登山計画とは

エベレスト清掃

野口はこの10年間に33回、ヒマラヤの地を訪れました。「我々、登山家はヒマラヤから様々な恩恵を受けているが、何かそれに対して恩返しをしたのだろうか」と言う気持ちから、ヒマラヤでの清掃活動を行ってきました。昨年、マナスル峰の清掃を終え、麓のサマ村に下りてきた際に、村人や子供たちと清掃活動を行いました。サマ村の長老が村人達に野口健の活動を紹介し「日本人が私達のマナスルの掃除をしてくれた。私達も一緒にやろう!」と呼びかけ、子供たちも含む総勢180人でサマ村の一斉清掃が始まりました。野口はこの時、自分達だけがやるのではなく、地元の人たちに呼びかけ、一緒に活動する事の重要性を実感しました。今年は2006年・年末から年明けにかけては、エベレスト街道の村々で地元の人にも参加を呼びかけながら、清掃を行ないました。また、4月には、エベレスト・チベット側で麓の村からアドバンスベースキャンプまでの清掃活動を計画しています。



富士山清掃隊長 今年も若村麻由美さん

昨年、マナスル・富士山同時清掃登山では、富士山側隊長・若村麻由美さんを中心に富士山での清掃も大成功に収める事ができました。今年も富士山側隊長として若村さんに参加いただきます。ネパールを代表するエベレストと日本を象徴する富士山で同時に清掃登山を行い、衛星中継を行うことにより、両国の友好をはぐくみ、また、今後の環境問題への意識啓発をおこなっていきます。



エベレスト登頂

アルピニスト・野口健は1999年3度目の挑戦でエベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立しました。97年、98年と二度の失敗の後のことです。その後、世に出た野口は様々な活動を展開しますが、いつも心のどこかにしこりのようなものがありました。エベレストはネパールと中国(チベット)の両国に属しています。野口は両方からの登頂にチャレンジしましたが、成功はネパール側からのものだけでした。「中国側からの登頂」は野口健にとって未完の挑戦です。2007年、10年間の思いを胸に再度エベレストの山頂を目指します。



スケジュール

ヒマラヤ清掃	エベレスト登頂
2006年 12月20日 日本発	2007年 3月20日 日本発
12月21日 カトマンズ着	3月21日~31日 6000メートル級にてトレーニング
12月25日 カトマンズからルクラへ移動	4月1日 カトマンズ着
12月26日 エベレスト街道の清掃開始	4月3日 チベット側へ移動
2007年 1月3日~12日 カラバタール・ロブチェピーク・チュクリンピーク登頂	4月15日 エベレスト・富士山同時清掃
1月14日~ クムジュンで再び清掃開始	4月5日~10日 清掃活動を行ないながらアドバンスベースキャンプへ移動
	4月15日 富士山・エベレスト同時清掃登山
	4月10日~5月20日 チョモランマ挑戦
	5月末 帰国

これまでの実績

エベレスト清掃登山 - 野口の環境保護活動の原点 -

野口は、エベレストに散乱する日本隊のゴミの前でヨーロッパの登山家に「日本は経済は一流だけど、文化、マナーは三流だ」と言われ、非常に憤りを感じたといっています。

エベレスト登頂後の記者会見で、野口は4年連続のエベレスト清掃登山を発表。エベレスト清掃登山は、日本を侮辱した西洋人に対する挑戦状でありました。

しかし清掃活動を続けるうちに、様々なことが見えてきます。中でも、ゴミを捨てる隊と捨てない隊があることは大きな発見でした。ゴミを持って帰るのはドイツ、デンマーク、ノルウェー、スイスといった欧州の国々、一方、ゴミを置いて帰るのは、日本、中国、韓国、インド、ロシアといった国々でした。

野口は「環境教育が進んでいる国は国自体もきれいで、ゴミの問題にもしっかりと取り組んでいる。結局は国民性の問題であり、その国の教育が問われているということに気づいた」と言います。エベレストの日本隊のゴミはまさしく日本の象徴であったのです。

その後、環境学校を始め、様々な活動を展開していくことになります。いわばエベレスト清掃登山は、野口の環境保護活動の原点とも言えます。

2000年から4年間、エベレスト清掃登山を成功させており、酸素ボンベ約500本を含む合計7.7トンのゴミを回収し、日本各地でごみの展示会や講演会を行い、環境意識の啓発につとめています。



富士山清掃登山 - 富士山から日本を変える -

富士山清掃活動は、野口健をリーダーとし、NPO法人・富士山クラブの協力のもと一般の参加者とともに人海戦術で清掃に取り組む活動です。昨年、「青木ヶ原樹海ごみゼロ作戦」を発表し、5年計画でごみをゼロにするという目標を打ち出しました。

青木ヶ原樹海はその大半は、綺麗な森ですが、一部ではドラム缶、廃材、タイヤ、車、生活用品、家電製品、トラックなど様々なゴミが捨てられ、ひどく荒廃しています。

富士山清掃登山では、最初に綺麗な森を散策してもらい、その後、荒廃している場所へ赴き、清掃活動を行うというプログラムが大半です。それは「こんな綺麗な森の中にこんなゴミがある」というコントラストにより、リアルな危機感を持ってもらいたいという野口の哲学に依拠しています。

富士山の清掃活動を皮切りに、富士山の世界遺産登録を国民運動に発展させ、日本のシンボルである富士山を変えることにより、適切な環境保護の流れが全国に波及していくことを目的としています。

これまで計5年間に渡って清掃活動を行ってきました。昨年のデータでは、合計2300人が参加し、約36トンのゴミを回収しました。



これまでの実績（２）

マナスル・富士山同時清掃登山

2006年の4月から5月の2ヶ月にかけて、ヒマラヤ山系の1つであるマナスル峰（8,163m）に登山家が投棄した酸素ボンベ、食料の食べ残し、テント、ロープなどのゴミを回収し、同時期に富士山での清掃活動を行いました。

野口はマナスル峰の清掃活動に従事し、富士山の清掃活動では、女優の若村麻由美さんが隊長として参加してくれました。マナスル峰からの中継を衛星電話によるテレビ電話で行い、マナスル・富士山での清掃の様子を同時中継しました。マナスルでは合計6トンものゴミを回収。富士山でも5トン超のゴミが回収されました。



マナスル・富士山同時清掃登山の意義

2005年のヒマラヤ・シシャパンマ峰の登頂の際、野口はシェルパ（ネパールの山岳民族）からマナスル峰に大量のゴミが投棄されていることを教えられました。数あるヒマラヤ山系の中でもマナスル峰は日本人にとって最も縁の深い山です。また2006年度はネパールとの外交関係樹立50周年と節目の年でした。

このような記念すべき年に、日本の象徴である富士山、ならびに日本にとって縁の深いマナスル峰を両国の連携によって清掃することにより、両国の更なる友好を図り、環境問題への意識啓発を行うことが本計画の意義でした。



登山暦

注) は各大陸最高峰 は撤退

1989年	8月	フランス・モンブラン(4807メートル) 16歳
1990年	12月	タンザニア・キリマンジャロ(5895メートル) 17歳
1992年	9月	オーストラリア・コジウスコ(2240メートル) 19歳
	12月	アルゼンチン・アコンカグア(6965メートル) 19歳
1993年	6月	アメリカ・マッキンリー(6149メートル) 19歳 5大陸最高峰世界最年少登頂記録達成・日本人マッキンリー最年少登頂記録
	12月	南極・ビンソン・マシフ(4897メートル) 21歳 6大陸最高峰世界最年少登頂記録達成
1995年	9月	ロシア・エルブルース(5642メートル) 22歳
1996年	1月	ロシア・エルブルース(5642メートル) 22歳
	10月	中国・チョーオユ(8201メートル) 23歳
1997年	5月	中国・チョモランマ(エベレスト、8848メートル) 23歳
1998年	10月	ネパール・サガルマータ(エベレスト・8848メートル) 25歳
1999年	5月	ネパール・サガルマータ(8848メートル) 25歳 7大陸最高峰世界最年少登頂記録達成
2000年		エベレスト清掃登山 26歳
2001年		エベレスト清掃登山 27歳
2002年		エベレスト清掃登山 28歳
2003年		エベレスト清掃登山 29歳
2005年	5月	チベット・シシャパンマ(8027メートル) 31歳

登山隊メンバー

エベレスト登山隊長	野口健
エベレスト登山隊員	谷口ケイ
エベレスト撮影班	平賀淳
富士山隊長	若村麻由美
富士山副隊長	舟津宏昭（富士山クラブ）

連絡先

本部

（有）野口健事務所

〒154-0016

東京都世田谷区弦巻 2-17-19

担当者 田附

電話 03-3426-2487

ファックス 03-3426-2452

メール info@noguchi-ken.com

緊急連絡先

在ネパール王国 日本大使館

住所 Panipokhari, Kathmandu, Nepal

郵便私書箱 P.O.Box: 264

電話 977(国番号)-1-4426-680 Fax 977-1-4414101

開館時間 9時～13時、14時半～17時（月～金）